

インパクトコンソーシアム 第6回運営委員会 議論のポイント

【日時】 令和7年6月13日（金）13:00～15:00

【場所】 ハイブリッド開催（オンライン・対面の併用）

- 【次第】 1. 総会決議案
2. 今年度実績及び来年度計画
3. 意見交換

次第1、2はそれぞれ資料に基づいて説明があった。意見交換における主なコメントは以下の通り。

＜各業界団体における活動の共有及び連携の可能性＞

- 日本経済団体連合会のインパクト投融資ワーキング・グループでは、参加企業による議論等を通じて、「インパクト評価・投融資に係るデータ・指標についての考え方」を取りまとめた。当ワーキング・グループでは、インパクト投融資の共通課題として、企業の生み出す社会的価値を定量・定性評価する枠組の発展、日本で重要性の高い社会課題に応じたデータ・指標の整備及び国際的な指標との整合、インパクト評価の意義・目的の社内共有を通じた社内の合意形成、対話相手となる投資家の関心に応じた情報開示等が挙げられた。さらに、日本の課題に応じた指標の設定、政府保有データを含むデータの整備、インパクト投融資推進に向けたメッセージ発信等を政府に期待する意見があった。
- 官民連携によるスタートアップ支援について議論する日本商工会議所の委員会において、地域の事業者は地元企業への投資意識が高いことが伺えた。他方で、当会議所の調査によると、創業期の事業者の半分以上が、最初の資金調達で借り入れ以外の資金調達の手法が見つからずに苦しんだと回答した。今後のインパクトコンソーシアムの分科会において、実証事例などを取り上げて有効な資金調達の支援策が見出されることを期待したい。また、大学ベンチャーとの連携も重要と考えており、商工会議所としてアカデミアと経済界の橋渡しの役割を担っていきたいと考えている。
- 経済同友会では、共助資本主義のコンセプトに基づき、インパクト創出に関する支援を推進している。社会的インパクトと経済的インパクトの両方を創出し、持続的な企業価値向上を目指す企業経営のあり方を共助経営と位置づけ、具体的な事例や方法を整理したガイダンスを公表・共有している。今後さらにこの企業経営の在り方を広めていきたいと考えている。

＜日本におけるインパクト投資と海外への情報発信＞

- 先日京都で開催されたGSG ImpactのGlobal Leaders Meetingにおいて、海外からの参加者がインパクトコンソーシアムを含む日本の取組に感銘を受けている印象を受けた。知る限りではインパクトコンソーシアムのような横断的な取組は他国にはないので、ぜひ海外に発信していただきたい。昨今ESGバックラッシュと言われるが、ESGはリスクコントロールを念頭に置いたものと理解しているところ、リスクコントロールに止まらず、未来に向けて持続的な価値を作っていくことが重要である。海外では投資家を中心にサステナブルファイナンスの議論が交わされている

が、価値を創出する企業こそが主役であることを認識することが必要であると感じる。

- 日本のインパクトの取組を国際的に発信する際に留意すべき日本の特異性について、次の6点があると考えている。1点目は、人口減少や地方創生等、日本特有の課題が多数存在すること。2点目は、企業価値とインパクトとの関係性について議論していること。3点目はGIINやGSGのインパクト投資の定義を柔軟に解釈して、リターンが出る形でインパクトを見る投資家がいること。4点目は投資家だけでなく企業が議論に参加していること。5点目は銀行のローンをインパクト投融資としていること。6点目は官民連携でインパクトを推進していること。中には海外の方から批判されるものもあるが、日本では海外に比べて幅広い方がインパクトに取り組んでおり、特有の事情もあるため、特に気にする必要はないと考えている。他方、日本においては海外と比較して、金融機関のインパクトに対するアペタイトが低いと見られるため、日本の金融機関のインテンシオナリティを上げていくことが必要である。また日本がリターンを重視する背景には、ビジネスモデルに対するイノベーションが不足していることも挙げられる。
- 日本が企業価値とインパクトの関連性を熱心に語る理由の1つとして、スタートアップのエグジットの7割がIPOであり、資本市場で持続的に成長できるかという点が問われることが挙げられる。
- 今後アドホックにグローバルアドバイザリーパネルを開催していく上で、次の3点を目的と考えている。1点目は学ぶということ。インパクト投資は20年ほど前に欧米で始まり、昨今のシステムチェンジを取り入れたインパクト投資手法を含め、ノウハウが溜まってきている。日本は海外のノウハウを学んでプラクティスの発展につなげるべきだろう。2点目は海外の実践者と協働すること。海外のインパクト投資資金が日本のインパクトスタートアップに流れる、日本でインパクト投資に取り組むアセットオーナーが、海外で効率的なインパクト投資を行うことが可能になる意義も考えられる。3点目は発信すること。日本特有の社会課題や経験をグローバルコンセンサスに入れていく意味でも、日本の取組を発信していくことが重要だと考えている。グローバルアドバイザリーパネルの運営としては、分科会の議論に役立つようなアドホックな企画や、民間イニシアティブとの連携、先日立ち上げられたGIIN Japanやインパクト分野で一番読まれているメディアであるIMPACT α LPHA等を通じた国際的な発信等が考えられる。

<その他自由討議>

- AI等を活用し、分科会を通じて蓄積されたデータや事例から比較可能な指標や重要社会課題の抽出ができるのではと感じている。AIやテクノロジーに関連した企業が分科会に参画すると良いのではと考える。
- 各分科会の取組について個社の立場でコメントする。データ・指標分科会に関しては、社会課題解決の取組を社員に浸透させるため、自分の仕事が世の中に与える変化を示す指標があるとよいと考えているところ、そのような汎用性の高い情報が得られるとありがたい。市場調査・形成分科会に関しては、社会課題解決がどのように企業価値に結び付くか、今後も研究していきたい。地域・実践分科会に関しては、地域金融機関の地域への貢献を可視化し、意義付けることで、その活動がより活性化するのではないか、またインパクトの事例集があると取組が進めやすくなるのではないかと思った。官民連携促進分科会に関しては、自治体だけではなく民間企業において

もインパクトスタートアップとの協働が考えられる。4分科会の連携がより密接に行われると良い。特に企業と金融機関がより連携しやすくなるように、サポート役になれるような連携が行われると望ましい。

- 各分科会の議論を深掘りするだけではなく、横につなげていくことも重要になってくる。例えばデータ・指標分科会で企業価値の関係性というテーマが出てきたことは、市場調査・形成分科会にもつながる。オーガナイズングデスクの役割の発揮に期待したい。昨今 GSG Impact Japan やインパクト志向金融宣言等、様々なイニシアティブが設立されているが、インパクトコンソーシアムには中心的な枠組という役割があるのではないかと考えている。
- 初年度は4つの分科会の自律的・主体的な運営で成果を出したが、今後は各分科会の連携や具体的な取組につなげていく必要がある。そのための企画運営を引き続きオーガナイズングデスクとして取り組んでいきたい。また、インパクトの担い手の裾野拡大のため、勉強会の企画運営も今後担っていきたい。過去に実施していた勉強会のコンテンツを、企業・団体の目線や実践の観点も踏まえてブラッシュアップさせていこうと考えている。特に新しい会員や会員候補の方に「インパクト」とはどのようなものか気づきが得られるような会にしていきたい。
- インパクトの担い手の裾野拡大に関連して地域大学を含む大学の有効活用について言及したい。文部科学省で地域大学を中心とした地域プラットフォームを作るような話があるので、インパクトの観点でも連携できるとよいと考えている。ローカルゼブラ企業の成長支援等の意識が大学にも広まっていくことを期待したい。

以上